

「介護福祉士の医療的ケアに関する実態調査」結果の概要と総括

令和3年12月15日

公益社団法人日本介護福祉士会

会長 及川 ゆりこ

介護と医療の連携の強化が推進されているなか、介護福祉士が行う医療的ケア（介護職が一定の条件下で実施できるたんの吸引等）の実施状況等を把握するため、運営サポーター及び代議員 313 名（令和3年11月12日時点登録者数）を対象に、介護福祉士の医療的ケアについてアンケート調査を実施しましたのでご報告いたします。

【結果の概要】

1. 医療的ケアは理解されているが、医行為ではない行為は医療的ケアと比べ理解が十分でない

医療的ケアと、原則として医行為ではないと考えられる吸引等の項目や内容について、いずれも「よく理解している」「まあまあ理解している」と回答した割合が高かった。一方で、医行為ではない行為の理解について「あまり理解していない」「まったく理解していない」と回答した割合は、医療的ケアと比べ高かった。

2. 専門性の向上及び勤務先からの要請により喀痰吸引等に関する認定・登録を行っていた

喀痰吸引等の業務を行うための認定・登録を行っているのは 22 名（27.8%）であり、その理由（複数回答）は「専門性を高めるため」15 名（68.2%）が最も多く、次いで「勤務先からの要請があった」9 名（40.9%）であった。

3. 業務多忙及び実地研修の確保の困難により喀痰吸引等に関する研修を受講していなかった

喀痰吸引等に関する研修を受講しない理由（複数回答）は「業務が忙しく研修に参加できない」16 名（28.6%）が最も多く、次いで「実地研修を確保できない」13 名（23.2%）であった。

4. 医療的ケアは「実施していない」割合が高かった

ほとんどの項目で「実施していない：対象者がいない」「実施していない：介護職員の業務になっていない」の割合が高い傾向があった。口腔内の喀痰吸引は「実施している：介護職員の業務になっている」と「実施していない：介護職員の業務になっていない」が同数であり、介護現場における看護師との分担が様々であることが示唆された。

5. 医行為ではないと考えられる行為は「実施している」割合が高かった

多くの項目で「実施している：介護職員の業務になっている」の割合が高いものの、坐薬の挿入や鼻腔粘膜への薬剤噴霧の介助など、「実施している：介護職員の業務になっている」と「実施していない：介護職員の業務になっていない」の割合が同程度の項目も見られた。

【総括】

- ・ 医療的ケアと医行為ではない行為について、介護職が的確に実施できるよう、学習コンテンツの開発等について検討が必要である。
- ・ 医療的ケアを介護福祉士の業として確立していくためには、医療的ケアに関する研修の受講機会の確保策や職場における、看護職員や管理者の理解を促す対応についても検討して参りたい。